公益社団法人　岡山県難聴者協会
会長　森　　俊　己

所感

昨年の総会で役員改選があり、体制が一新されました。年度途中からの体制の変化という事で皆様にはご迷惑をおかけしたところが多々あったのはないかと自覚しているところです。取りあえず経験を積み試行錯誤を繰り返し今日を迎えた、というのが正直な実感です。

執行体制のうち喫緊の懸案は会計をどうするか？でしたが、会計担当をはじめとし、役員一同が頑張ってくれました。

また、協会が長く存続していくためには「事務局機能の強化」が必要不可欠と考えています。そのためには事務職員を設置するだけの経費が必要となり皆様のご協力を切にお願いする次第です。

さて、相変わらずのコロナ禍の中、この一年の事業の実施には制約がありながらも反面、コロナをきっかけに IT 機器、ソフトの進歩、オンラインが急速の社会でも広まった事で、当会でもこれに対応するため要約筆記の方の協力を得て「運営会議」「耳の日の集い」のオンライン開催に至った事はコロナ後においても今後の大きな転機になるものと思われます。今後もこの取り組みは進めていきたいと思います。

また、聴覚障害者センター事業であるため当会の事業報告にはあげていませんが、聴覚障害者センターが一年遅れながら設立 15 周年フェスティバルを開催し当会も協力事業として、フラ教室の集大成としてのステージ発表、県難聴の活動の紹介、岡山市、倉敷市、瀬戸内市のそれぞれの難聴団体の紹介展示があったことで地域に根差した活動、難聴者の居場所としての存在が改めてクローズアップされました。今後の懸案として、他の地域、特に県北での拠点が望まれるところです。

聴覚障害者センター事業として、自立支援拠点活動支援事業として「会計勉強会」「生活応援グッズ体験会」の企画実施し成果をあげた事を一言申し上げます。また、文化講演会の聴講でスキルアップ、災害に備えての災害救援ボラ研修会等への参加・研修。遠隔情報保障システムの勉強会。電話リレーサービスの説明会などなど、難聴者を取り巻く社会情勢は大きくかわりつつあります。

世界のトヨタ自動車が大企業になったのは「変化を恐れない」、モノ作りの現場において一秒を縮める不断の努力・改善を怠らなかったからです。

難聴者福祉活動においても、そこに留まって同じ事をくり返していただけでは社会から取り残されてしまいます。大きな前進でなくても良い。前よりもほんのチョットだけ変化を目指しませんか。成果が出なかったら前に戻れば良い、失敗を恐れない。でも前を向く新たな変化を繰り返して欲しい。大きな一歩でなくて良い、半歩でも前を向いていたいと思います。

令和３年度　事業報告書

令和３年４月１日から令和４年３月 31 日まで

事業一覧

⑴公益目的事業

事業番号	事業内容
公１	難聴者等の社会福祉の向上に関する事業
	１、耳の日の集い　事業
	２、教室事業
	食育教室
	フラ教室
	３、広報事業
	広報誌「岡山難聴」による広報
	ホームページによる広報

⑵収益事業

事業番号	事業内容
収１	収益事業

※　社会参加促進事業、耳の日の集い事業、教室事業、広報事業、聴覚障害啓発事業（難聴）は、定款第４条第１項第１条の難聴者等の社会福祉の向上に関する事業であることから、ひとつにまとめてます。

公益目的事業　　公１

１、耳の日の集い事業

3 月 3 日の耳の日を契機とし、聴覚害、耳の健康の啓発を趣旨とし、一般市民に耳に関する情報を提供し、聴覚障害、難聴についての理解を広める事を目的とする。

YouTube 配信　　3 月 3 日から 3 月 31 日まで配信
「日本耳鼻咽喉科学会岡山県地方部会」のホームページから配信した。

コロナ禍において、オンライン開催とした。多くの市民に聴覚障害、高齢難聴等の啓発を進めたい。オンライン開催にあたり、岡山市民をはじめとする広報をマスコミ、広報誌等で実施する事で広く周知を図った。

YouTube 配信コンテンツ

① 耳鼻咽喉科地方部会：専門医による耳の病気相談
- どうしよう、耳鳴りが止まらない　　視聴回数　163
- 子供の中耳炎　　100
- 新生児聴覚スクリーニングについて　　192
- 補聴器について　　113

② 難聴協：　高齢難聴の補聴器購入助成について　　201
③ ろう協：　　ろう協への誘い　　（４つのコンテンツ）　　341
④ 補聴器販売店会：　失敗しない補聴器選び　他県作成のもので回数に含めない

財源　　岡山市人権啓発活動補助金　　協賛会社からの協賛金等。

２、教室事業

食育教室

日時　　令和 3 年 12 月 12 日　（日）　10：00～
場所　　岡山市福祉文化会館　3 階　料理教室
（岡山市中区小橋町 1-1-30）
講師　　森本　美登里　（公益社団法人岡山県栄養士会　管理栄養士）
参加　　16 名
内容　　森本先生の料理講習の後、料理のレクチャーを受けた
メニュー　「サーモンの押し寿司」　「ごろっと野菜のクリームスープ」
「鶏ハムサラダ」　「ホットケーキ MIX でシフォンケーキ」

フラ教室

日時　　令和 3 年 4 月 30 日　～　12 月 22 日　計 14 回

場所　　岡山市岡輝プラザ

（岡山市中区小橋町 1-1-30）

講師　　板井　幸子　（フラ講師）

参加　　延参加人数　　52 名

内容　　1 回あたり 2 時間

特記事項　岡山県聴覚障害者センター設立 15 周年でフラダンスを披露

曲目　「プア・オ・カ・マカハラ」「バリバリの浜辺で」

財源

公益信託梶谷福祉基金からの助成金との参加会費にて実施

３、広報事業

中途失聴者・難聴者の情報不足を補い、当会の行事・会員の近況等を広報し、かつ社会福祉に関わる情報を提供するとともに、一般社会に対して中途失聴者・難聴者について理解と啓発を促進させることをもって、県民の福祉の増進に資する事を目的とした。

１)、広報誌「岡山難聴」による広報

発行　　12 回/年　累計　約 4600 部

送付先　　会員、地方自治体、医療関係者、全国難聴団体、関係福祉団体、
また、各事業等において無料配布

その他　　「耳の日の集い」等の事業の宣伝。未入会難聴者に当会の紹介等で配布
地方自治体等は難聴啓発活動の一環として無料にて配布

２)、ホームページによる広報事業

当会の活動をはじめ、社会福祉に関する団体の活動情報の掲載。

また、全難聴の記事等を掲載するなど、より有効な情報を発信した。

随時　更新

財源　　共同募金　　岡山県身体障害者更生援護事業補助金

広告掲載料、会費、寄付金等を充当した。。

収益事業　　収１

１、収益事業

コロナ禍において中止となった。

法人運営のための事業

令和3年度　法人事業			
月	日	事　　項	備　　考
4月	4	事業運営会議	本部
5月			
6月	27	理事会	本部
7月	17 17	通常総会 第1回臨時理事会	本部
8月	1	第2回臨時理事会	本部
9月	4	運営会議	本部
	25	事務局会議	事務局
10月	2	運営会議	本部
11月	7	運営会議	本部
12月	4	運営会議	本部
	4	会計会議	事務局
	12	食育教室	
R４/1月	16	運営会議	本部
2月	5	運営会議 オンライン	本部
	26	会計会議（次年度予算編成）	事務局
3月	27	第2回　通常理事会	本部
	13	会計会議	事務局
その他	会報印刷・発送作業は毎月の実施		
		フラ教室　2回/月　教室開催 聴覚障害者センター15周年フェスティバルにてステージ披露	

協力事業　（主だったもの）			
月	日	事　　項	備　　考
4月			
5月			
6月	6	運営委員会	聴覚障害者センター
7月	18	中四国B幹事会（オンライン）	全難聴中四国B協議会
	31	運営委員会	聴覚障害者センター
8月			
9月	18	運営委員会	聴覚障害者センター
10月	4	県意思疎通支援事業担当者会議	県障害福祉課
	15	手話言語条例等の意見聴取	県議会
	17	15周年記念フェスティバル	聴覚障害者センター
	30	災害ボラ研修会 「避難所での情報保障のあり方」	聴覚障害者センター
11月	1	岡山県　意見交換会	県障害福祉課
	7	県障害者権利擁護セミナー 「自分らしさを支える共生社会を目指して」	岡山県
	11	電話リレーサービス　説明会	聴覚障害者センター
	14	市民公開講座「人工内耳」	岡大耳鼻科
	15	自民党　個別懇談会	自民党県議団
	20	運営委員会	聴覚障害者センター
12月	18	自立支援事業「会計を学ぶ」	聴覚障害者センター （難聴協担当）
R４/1月	9	岡山県災害救援専門ボラ研修会	聴覚障害者センター
	16	自立支援拠点活動事業 「福祉機器の紹介と体験}	聴覚障害者センター （難聴協担当）
	19	手話等に関する条例に関する意見交換	岡山県議会
	22	運営委員会	聴覚障害者センター
2月			
3月	13	運営会議	聴覚障害者センター
	14	障害者社会参加推進協議会	県身障連合会
	18	県議会傍聴 手話コミュニケーション条例採択	県議会
	19	要約筆記事業研修会（オンライン	全難聴
	20	文化講演会	聴覚障害者センター
	24	県障害福祉課　意見交換	県障害福祉課
	26	聴覚障害者災害対策本部防災会議	岡山県聴覚障害者 災害対策本部
	26	聴覚障害者センター　運営委員会	聴覚障害者センター
その他		15周年事業実行委員会を6月より 毎月の開催　（11月反省会）	聴覚障害者センター